

年次報告書

ANNUAL REPORT

2018

YWCA (Young Women's Christian Association)

は、キリスト教を基盤に、世界中の女性が言語や文化の壁を越えて力を合わせ、女性の社会参画を進め、人権や健康や環境が守られる平和な世界を実現する国際 NGO です。1855年に英国で始まり、現在世界120あまりの国で、約2,500万人の女性たちが活動しています。

日本 YWCA は、24の地域 YWCA、37校の中高 YWCA とともに、女性や子ども、高齢者など、弱い立場におかれている人たちをエンパワーすると共に、ビジョンに掲げた社会を実現する人材を養成しています。

日本YWCAの使命（ミッション）

イエス・キリストに学び、共に生きる世界を実現する。
世界の人々と共に人権・平和・環境の問題に取り組む。

日本YWCAのビジョン

地域で女性達が主体的に活動することを通して、
以下の社会をめざします。

- ① 平和憲法が生かされ、核も暴力もない社会
- ② 女性と子どもの尊厳を守る社会
- ③ 若い女性がリーダーシップを発揮する社会
- ④ 多世代・多文化で多様な背景を持つ人びとを尊重する社会

目次

若い女性のリーダーシップ養成 1

ひろしまを考える旅

アジア太平洋の若い女性リーダー育成事業&若い女性の
国際フォーラム（大阪YWCA100周年記念事業）への協力

国連女性の地位委員会（CSW）派遣

日韓ユース・カンファレンス

中高YWCA地区カンファレンス

被災者支援活動 4

YWCA活動スペース「カーロふくしま」

セカンドハウスプログラム

リフレッシュプログラム（保養キャンプ）

地域YWCAでの活動 7

Local Action（地域YWCAを主体とした活動）

国際連帯／アドボカシー（政策提言活動） 8

寄付報告 9

若い女性のリーダーシップ養成

ひろしまを考える旅2018

2018年8月9日(木)～12日(日) @広島

「本当に知っていますか?～広島・ヒロシマ・広島」

「ひろしまを考える旅」は、核兵器による惨事を二度と繰り返さないために、平和の大切さを学び、平和な世界を実現したいと願い、広島の地で実施する2泊3日(オプションツアー参加の場合は3泊4日)のプログラムです。全国の中高生・大学生を中心に、留学生、韓国と中国からの参加者等、多文化・多世代が参加。被爆証言を聴き、広島平和記念資料館見学やフィールドワーク、グループ討議など、参加者は五感を研ぎ澄ませてひろしまの経験を追体験し、平和について考えます。1971年に始まり、2021年で50年になります。

広島は、広島・ヒロシマ・ひろしま・HIROSHIMAと、いろいろな文字で表されます。なぜ違う文字で表現されるようになったのか。2018年の夏は、その意味や込められた想いを考え、答えを探す旅になりました。例年の参加者に加え、世界YWCAとホンジュラスYWCAからもゲストを迎え、多くのユース参加者が、多文化・多世代の参加者と共に学び、少人数でのディスカッションを繰り返すことで、自らの思考・行動の「枠」に気づき、多様な価値観に触れることができました。

2019年3月11日～4月5日には、NCC 教育部平和教育資料センターの協力を得て、特別展示「ひろしまを考える旅ー50年の軌跡ー」を開催。1971年の旅のスタートから今日まで集めてきた写真や被爆者の声は、見る人にとるべき行動の指針を示してくれるものになりました。

※本プログラムは、(公財) ウェスレー財団の助成を受けて実施しました。



全国・海外から59人が参加

参加者の声

グ ループディスカッションでは、他者の意見を聞いて少しずつ自分の考えが変化していくのが好きだ。一つのことを10人で考えれば、10のアイデアや意見が出る。そこで、人間の多様性を感じるし、他者との違いを認め、受け入れることの大切さを学ぶ。3月に参加した南京の旅と今回の広島に大きな共通点を感じた。さまざまな報道・記事などで情報は得られるが、実際にその現場に立つこと、人から話を聞くことに意味がある。そして、それをどのように受け止め、自分の頭で考えるのが大切であると思う。(20代)

アジア太平洋の若い女性リーダー育成事業&若い女性の国際フォーラム(大阪YWCA100周年記念事業)への協力

2018年7月20日(金)～8月12日(日) @大阪

日本YWCAは、大阪YWCAの100周年記念事業「アジア太平洋の若い女性リーダー育成事業」および「若い女性の国際フォーラム」開催に際して海外ゲストの招聘等に協力し、国際的な交流とユースのリーダーシップ育成を支援しました。同プログラムでは、オーストラリア、韓国、ミャンマー、フィリピン、台湾、タイ、ネパールの7YWCAから参加した若い女性たちが、4週間の滞在を通じてさまざまな経験を共有し、大阪YWCAの若いリーダーたちとともにプログラムづくりにも参画しました。また、「ひろしまを考える旅」にも参加した世界YWCA副会長のアンドレア・ミシェル・グラディスさんが、若い女性と少女のためのセーフ・スペースや、世界中で若い女性たちが置かれている状況についてスピーチをしました。



フォーラムに集った若い女性たち

第63回国連女性の地位委員会 (CSW63) 派遣

2019年3月7日(木)～17日(日) @米国・ニューヨーク

テーマ

ジェンダー平等と女性と少女のエンパワメントのための社会保護システム、
公共サービスならびに持続可能なインフラへのアクセス

日本 YWCA は、若い女性が国際的なリーダーシップ・トレーニングに触れる機会として、「国連女性の地位委員会 (Commission on the Status of Women (CSW))」に若い女性を派遣しています。2019年3月は、8名のユースを含む9名を派遣しました。

参加者は事前準備会を通して、地域 YWCA の活動について知り、ジェンダーの課題について学び、国連での CSW 本会議に並行して開催される NGO の「パラレルイベント」の準備をしました。ニューヨークで実施したパラレルイベントでは、性教育・性産業・日常の性暴力の3つのテーマで国内の状況を発表しました。1つ目の「性教育」のパートでは、日本において包括的なセクシュアリティ教育が不足しているということ。2つ目の「性産業」では、法制度から日本特有の性風俗システムを読み解き、また日本特有のアダルトビデオ産業について報告。そして、3つ目の「日常の性暴力」では駅や電車、コンビニなど、身近な場所における性暴力・性差別の事例を紹介しました。これらすべてのテーマは、事前準備会の会話の中から誕生しています。準備会でお茶を飲みながら話すうちに自然と浮かび上がってきた、若い女性としての「どうして?」や「知りたい」そして「伝えたい!」。それをそのまま形にして、このような多岐にわたる発表が完成しました。同イベントには70名程度の参加があり、世界各国からの参加者より好評を博しました。

この他、日本 YWCA からの参加者たちは、国連での本会議の傍聴、世界 YWCA が開催するオリエンテーショ



パラレルイベントでの発表

ン、世界各国の NGO が主催するさまざまなイベントへの参加、オーストラリア政府と世界 YWCA が主催した若い女性との朝食会、日本政府と NGO の会合、ニューヨーク市・ブルックリン YWCA の訪問、UN Women 主催のユース関連イベント、アジアの YWCA の仲間たちとの交流会などを通じて、世界各国の YWCA の仲間や女性たちの活動に出会い、大いに励まされました。



ブルックリン YWCA での記念撮影

参加者の声

CSWに参加して感じたことは、特に日本では学生など若い年齢の人々が女性の社会進出やジェンダー平等といった社会問題に対してまだまだ関心が薄いのではないかという事です。実際に参加したCSW関連のイベントの中には、十代の若い女性たちがパネルディスカッション形式で自身の経験や思いを伝え、人々に訴えかける場面も見かけました。他にも、世界中から集まったユースが、CSWの議論の進捗状況や情報共有を自主的に行っている姿もありました。研修が終わり、今年の女性の地位委員会も閉幕しましたが、むしろここからが私たちのスタートなのであると考えています。この経験を、自分自身の学びとして終わらせるのではなく、問題に関心を持ってもらうためのユース発信者となるように、アクションを起こしていきたいです。



ニューヨーク市 YWCA の前で

日韓ユース・カンファレンス2018 講演・ワークショップ・ブックレット『私の人権のはなし』

- 神戸開催 2018年10月20日(土) ● 東京開催 2018年10月28日(日)
- ブックレット『私の人権のはなし』完成記念イベント 2019年3月31日(日) @東京

『私の人権のはなし』は、2017年度の「日韓ユース・カンファレンス(日本と韓国のユースメンバーが日韓共通の課題に取り組む交流プログラム)」を受け、企画されました。同プログラムで得た学びと、そこで成立したアクションプラン(課題解決に向けた行動計画)を受けて、「プログラム終了後も、より良い社会を目指してアクションを起こそう!」と集まった若い女性中心の実行委員会が、草の根での活動の企画・実施を進めてきました。

年間を通して、「ルッキズム(外見評価)」をキーワードに、人権について考えました。10月には、東京と神戸で講演・ワークショップを実施。その後、10月に行われた講演の内容や、身近なルッキズムの事例、日韓のアンケート結果・考察、ワークショップ集、韓国YWCAのユースの声を掲載したブックレット『私の人権のはなし』を作成しました。3月には、ブックレットの完成記念イベントを実施。韓国YWCAのユース・職員もオンラインで参加し、ルッキズムについて意見交換を行いました。



神戸開催のワークショップ参加者

中高YWCA地区カンファレンス

日本YWCAには全国37校の中学校・高等学校が加盟し、毎年夏に各校から中高YWCAに所属する生徒たちが集まってカンファレンスを開催しています。2018年度は地区カンファレンスの年で、3つの地区で行いました。

- 東北・北海道地区 8月2日(木)～4日(土) @北海道・南幌 [テーマ] 人権
- 関東地区 8月1日(水)～3日(金) @群馬・草津 [テーマ] ハンセン病について学びを深める
- 関西地区 8月2日(木)～4日(土) @京都 [テーマ] 共に生きる～小さい者と共に歩む～

参加者の声

視 点を変えてみると全く違う考えになるということを教えられました。物事を一方から見るのではなく、多面的に考える大切さを学びました。自分の価値観や固定概念で物事を決めつけず、様々な立場に立って、考えられるようにしたいと思いました。(東北・北海道地区参加者より)

そ れぞれの事情はあれど、やはり「無知」による偏見が大きかったのではないのでしょうか。もっときちんと「知る」という姿勢をもつ人がいたのなら、重監房のような悲劇は起きてなかったかもしれないし、らい予防法の廃止ももっと早かったかもしれないと思うと、私はきちんと「知る」姿勢をもちたいと思いました。(関東地区参加者より)

感 情を相手に伝える」、「ほめる」、「共生社会って?」分かっているようで、実践するのは難しいこれらのことを、ワークショップを通して学びました。小さくされた者と共に生きるとは?ということについて、考えを深める3日間でした。(関西地区参加者より)



関西地区カンファレンスで

被災者支援活動

2011年3月11日、あの日に生まれた子どもたちが、20歳になるまで支援を続けようと、「com7300委員会」を立ち上げ、東日本大震災被災者支援に取り組んでいます。「com」はラテン語で「ともに」、「7300」は20年間の日数です。東京電力福島第一原子力発電所の事故から8年、原発事故の終息は程遠く、放射能被災による課題はそれぞれの生活の上に残されています。日本YWCAは、リフレッシュプログラム、セカンドハウスプログラム、活動スペース「カーロふくしま」を拠点とした事業、の3本柱で支援活動を行っています。これからも、多くの「小さな声」の叫びを聴きながら、活動を続けていきます。

カーロふくしま [のべ525名利用]

「カーロ」はイタリア語で「親愛なる」「大切な」を意味し、YWCAの東日本大震災支援の活動拠点として、2012年11月、JR福島駅にほど近い福島市矢剣町に開設しました。福島に住む女性や子どもたちをサポートし、震災後の生活や放射能汚染への不安や悩みを解消し、安心して話し・集い・学ぶためのセーフ・スペースとなるよう、さまざまな活動を行っています。

全国各地のYWCAからも、勉強会や夏休み子ども教室の開催など、さまざまな形でカーロを訪れ、福島の女性や子どもたちとの交流が生まれています。

プログラムについては、東日本大震災被災者支援活動を担当するcom7300委員会で話し合いを重ね、心とからだの安全と安心をサポートする講座、生活にリフレッシュや潤いを与えるワークショップ、起業する女性のためのスペース提供など、多岐にわたって開催しています。

また、全国各地の保養を行っている団体と連携し、福島市近郊の皆さんへの情報の提供や相談会への会場貸出しを行い、セシウム測定を実施しているNPO法人新宿代々木市民測定所と提携し、尿中セシウム無料測定の窓口にもなっています。

2018年度は初の試みとして、近隣に所在するNPO法人ビーンズふくしま、NPO法人ルワンダの教育を考える会との協働により「まめふくマルシェ」を開催。就労をめざしている方々が育てた野菜や、紛争地ルワンダの生地を使った雑貨・ルワンダ産のコーヒーなどを販売し、それぞれの活動を紹介する場にもなりました。



知りたい聴きたい保養のおはなし



ケーキづくりワークショップ

- ◎カーロふくしまおはなし会（4回開催）
- ◎わくわくサマー教室
（福島YWCA、熊本YWCA、松山YWCAによる夏休み子どもイベント）
- ◎福島Y'sカフェ（福島YWCA主催によるワークショップ・2回開催）
- ◎いわき市、二本松市、白河市への出張保養相談会
- ◎セカンドハウス事務局
- ◎そのほか、パステルシャインアート教室、ネイルケア教室、他団体への会場提供など

セカンドハウスプログラム [2018年度利用者数:18 家族59名]

セカンドハウスは、福島県内の放射能被災下にある家族やグループ、および単身女性を対象に、自宅同様にリラックスして過ごせる家族型滞在保養プログラムです。

乳児や就学前の小さな子どもがいるご家族や、きょうだいに年齢差があり一緒に保養プログラムに参加できない、普段の生活からほんの少し距離を置いて心身ともにリラックスしたい場合などに利用されています。また、利用者にはリピーターが多く、「もうひとつの我が家」としてのニーズの高さを感じています。横浜・名古屋・神戸にある3軒の住宅のほか、2018年度からは函館YWCAが運営を開始。ゲストハウスに家族を招き、函館YWCAが主催するイベントに招待するなど交流を深めました。セカンドハウスは活動に賛同してくださった大家さんから無償で提供いただいています。また、皆さまからのご寄付で、利用者の交通費の一部を補助しています。各地域YWCAや近隣のボランティアの皆様が運営のサポートを行うなど、たくさんの方々のご協力によって運営されています。

利用者の声

私 は昔ほど神経を尖らせることはしなくなりました。そんな生活に8年も疲れてきてしまっていました。今はできることを少しでもできる範囲で頑張っていこうと思っています。ですので、このような支援はとてありがたいです。できればこれからもずっと続けてほしいです。

セ カンドハウスを利用して良かったことは、子どもの身体を休めることができたこと、考える機会ができ、周囲を見渡すことが少しずつできるようになったことです。自宅に戻ってから、娘は毎日進路実現のための勉強をするようになり、これも保養の効果かと思っています。

リフレッシュプログラム(保養キャンプ)

@福島・東京・静岡・名古屋・大阪・京都・福岡・熊本

リフレッシュプログラムは、放射能の影響の大きい地域で日々を暮らす子どもとおとなが、安心・安全な場所で心身ともにリフレッシュするために実施しているプログラムです。全国各地の地域YWCAが、それぞれの地域の特色を生かしたプログラムを夏や春の子どもたちの長期休暇に合わせて行います。京都YWCAは、夏は、韓国と日本のユース交流のプログラムに福島の中高生を招き、春は「京都で進学を考えよう!」というプログラムを実施しています。また福島・静岡・名古屋・大阪・福岡YWCAでは自然を楽しむプログラム、熊本の「福島&熊本春のわくわくキャンプ」ではテーマを「音楽」とし、みんなで音楽をつくって楽しみました。海や川での水遊び、キャンプ場での野外料理、オリエンテーリングなど、自然の中で思いっきり遊ぶことを体験できる数日間です。

小学生の時から毎年参加していた子どもが中学生になり、リーダーを担うようになったYWCAもあります。また、東京YWCA野尻キャンプ場では、これまで全く保養プログラムに参加することができなかった重度の障がいがある子どもとその家族が、今年初めて参加しました。今後もさまざまなニーズに応えつつ、続けていきたいと願っています。

2018年度は8つの地域YWCAで実施。206名が参加しました。



上/名古屋YWCA 岩屋堂公園にて
下/大阪YWCA 万博公園へ

北海道胆振東部地震被災者支援

2018年9月6日北海道胆振東部地方は、最大震度7の揺れに襲われました。札幌YWCAを活動の拠点に、函館YWCA・日本YWCA・近隣教会ほかが連携して支援にあたりました。支援の内容は、液状化の被害が深刻な札幌市清田区里塚地区への義援金とリフレッシュプログラムの実施、中央共同募金会が設置する災害ボランティア活動支援プロジェクト会議から要請を受けたむかわ町子ども発達支援センターたんぽぽ（以下、たんぽぽ）への協力です。直後の混乱の中、通常の運営がままならない時期の指導員を補助するボランティアを派遣、12月にはたんぽぽの子どもたちと保護者のためのクリスマス会、3月にはお楽しみ会を実施しました。



たんぽぽのクリスマス会

2019年度、里塚地区のリフレッシュプログラムは、要望に応じて9月まで継続します。また、6月から8月にかけて、たんぽぽと子ども発達支援センター穂別きらり^{ほべつ}の子どもたちを対象に、日帰りでリフレッシュプログラムを実施します。

西日本豪雨災害被災者支援

2018年7月西日本を襲った記録的豪雨。呉YWCAでは発災直後、生活に欠かせない水道及び洗濯機を会館周辺住民他に提供、また、ボランティアの宿泊場所として呉YWCAの建物を提供しました。その他、災害復興を考える講演会も開催しました。

また、天応地域の地域住民が集う場所が被災により資機材等が流されてしまい対応に苦慮しているとの相談を受け、被災地域に暮らす人たちの心を支える支援として地域サロンの物品を提供しました。

呉YWCAの活動が中国新聞に掲載



熊本地震被災者支援

2016年4月に震度7の地震に見舞われた熊本県。熊本YWCAは、2016年度から2019年度までの4年計画のもとで被災者支援活動に取り組んでいます。

2018年度は、2019年3月24日～28日に、福島・熊本から30名の小学生を招待して「わくわくキャンプ」を実施しました。熊本YWCAのユース会員が中心となって運営し、未だに放射能汚染の影響のために外での遊びを控えなければならない福島の子どもたち、2016年の熊本地震で被災した子どもたちに、安心して楽しい4泊5日のキャンプを提供しました。その他、夏の「ダイブプログラム」、災害などの緊急時に備えての子どもの心理的応急処置一日研修、支援の行き届いていない阿蘇地域への支援等を実施しました。



わくわくキャンプで

南アジア洪水被災者支援

日本YWCAは、海外のYWCAと連携し、自然災害等の際には募金を呼びかけて現地のYWCAが行おうとしている活動をサポートする形で、緊急支援活動を行っています。2018年8月に南アジアを襲った洪水を受け、インドとミャンマーのYWCAの被災者支援活動に緊急支援金を送金しました。

地域YWCAでの活動

Local Action (地域YWCAを主体とした活動)

日本中に24ある地域YWCAは、日本のYWCAが取り組む社会貢献活動の拠点となります。2017年に開始した「LA (Local Action)」は、地域YWCAが主体となり協働して展開する社会貢献活動を、日本YWCAが資金提供と広報などで応援するものです。第1期LAとなる2017年度～2018年度の活動は、2016年11月の全国会員総会で選ばれました。

全国ユーススキルアップ研修・交流プログラム

【協働】熊本・大阪・長崎・福岡・沖縄・京都・神戸YWCA

全国のユースが集い、交流しスキルアップすることで、ユースがYWCAを盛り上げ、地域の繋がりをつくることを目指す活動。2018年度は10月に熊本で「ユースギャザリング」を実施、全国から14名が参加しました。スタンプラリーを通して地域について知り、これから実現したい夢を語り合う2日間でした。ここで作られたアイディアから、2019年3月には横浜YWCAで、ユースによるミュージカル・ワークショップが実現しました。



ユースギャザリング

ユースのための憲法カフェ

【協働】東京・横浜YWCA

10代・20代のユースを対象に学習会を開催。政治が自分の生活に深くかかわっていることを知り、これからの人生で憲法が保障している内容を具体的に身近に考えられるようなテーマの設定を目指しました。2018年度は「貧困」「恋愛」「選挙」をテーマに3回実施、延べ42名が参加しました。



ユースのための憲法カフェ

会員のリーダーシップ養成を考える -三市Y合同合宿-

【協働】京都・神戸・大阪YWCA

地域YWCAで会員活動の中核を担うメンバーが「合同合宿」を行い、自ら「会員・運営委員とは?」「リーダーシップとは?」を問ひかけ、現状分析、地域YWCA間の比較検討などを行うことで、リーダーシップ養成を考えました。2019年度は神戸で行われ、39名が参加。活動の成果として、各地域YWCAで、運営委員の組織理解促進や研修の方法に関する取り組みが活性化されました。

Girls Rock Day Camp

【協働】横浜・熊本・甲府・広島・福岡YWCA

音楽の演奏を通して若い女性が自信をつけ自尊心を高め、協力し合うことを学ぶ場を提供。そのことを通して地域の課題を解決するためのプログラムを企画・運営できる若い女性を増やそうとする活動です。2018年度は8月に熊本で合宿形式で実施、7名の参加者が実際にバンドを組んで課題曲を練習・披露しました。

沖縄とわたしたち・平和とあなた in かながわ

【協働】横浜・湘南・平塚YWCA

神奈川の人が「沖縄」を自分の問題として考え行動するきっかけづくりを目的に、映画上映会や報告会など多角的なプログラムを実施しました。2018年度は、沖縄知事選報告会、朗読劇公演、学習会を開催し、延べ170名が参加しました。

YWCA平和の守り人～地域のピースマップを作ろう!～

【協働】函館・広島・札幌YWCA

地方都市における戦争の傷跡を多くの人に知らせ、平和について考える機会となる『はこだてピースマップ』を2000部発行。2018年度は同マップを用いて函館YWCA「平和と憲法をめぐるトークシリーズ」2回、札幌YWCA「憲法カフェ」1回を実施、延べ119名が参加しました。

左/完成した『はこだてピースマップ』
右/展示ブースで販売



国際連帯・アドボカシー（政策提言活動）

パレスチナYWCA支援／オリーブの木キャンペーン

パレスチナでは、長年続く軍事占領により、人々の生活が脅かされています。JAI（パレスチナYWCA・東エルサレムYMCAの共同プロジェクト）は、パレスチナの人々の生活に深く根ざしたオリーブの木の植樹という非暴力的かつ世界中の人が寄付により参加できる方法で、現地の状況を広く伝え、雇用創出、環境保全、生活の安定化をはかる取り組みを行っています。日本YWCAは、この「オリーブの木キャンペーン」を支援しています。3000円のご寄付で1本のオリーブの苗木を植えることができます。2018年度は、日本YWCAから572本の苗木を植えるための募金を送りました。

また、日本YWCAは、パレスチナYWCAが実施している紛争解決に向けたリーダーシップ・トレーニングや女性の自立のための職業訓練、保育所運営などを支援しています。



各国からの参加者



オリーブ畑で、農家の女性と

パレスチナYWCA主催国際ユース会議・オリーブ収穫プログラム

2018年10月10日（水）～22日（月） ユースが参加しユースが決める：平和と正義に向けて

数十万のパレスチナ人が故郷を追われた「ナクバ（大災厄）」から70年目となる2018年、パレスチナYWCAが開催した国際ユース会議「ユースが参加しユースが決める：平和と正義に向けて」には、ユース337名、日本からの参加者2名を含む516名が参加し、封鎖され空爆を受けているガザからもユースがビデオ中継で参加しました。教育を受けても職がなく、選挙権を行使できない、デモに参加したりSNSに投稿しただけで逮捕・投獄されるなど、人権を否定され続けているパレスチナのユースの状況が共有されました。日本からの参加者も、沖縄YWCAの協力を得てワークショップを実施しました。また、JAI主催の「オリーブ収穫プログラム」にも参加し、世界各国からの参加者とともに、入植者に脅かされているオリーブ農家の収穫作業を手伝いました。また、入植者による占拠・家屋の収奪に脅かされるヘブロンやエルサレムの旧市街、エルサレム近郊の巨大な入植地、強制撤去されつつあるベドウィンの村、70年間帰れずに何世代もの難民が暮らす難民キャンプなどを訪れました。

声明・賛同・後援

- モニタリングポストの継続配置を求める市民行動 団体賛同（4月14日）
- 2018夏ほよん相談会 団体賛同（4月14日）
- ストップ改憲！8.6新聞意見広告2018 団体賛同（4月25日）
- 第29回全国キリスト教学校人権教育セミナー 団体賛同（5月16日）
- 「ガザでの抗議運動参加者に対する殺傷力のある武器使用中止の働きかけ、真相調査の調整に尽力してください」共同声明への賛同（6月7日）
- 恵泉女学園大学と梨花女子大学の協定締結記念 日韓国際シンポジウム 後援（7月25日）
- 山田火砂子監督映画「荻野吟子」 後援（7月25日）
- 「東京医科大学の女子受験者への得点操作に抗議し、ジェンダー平等社会の形成を求める要望書」（8月7日）
- 早稲田奉仕団 韓国スタディーツアー 後援（9月6日）
- 沖縄県知事選を迎えるにあたっての共同アピール 賛同（9月6日）
- 柴山文科大臣の「教育勅語」発言の撤回と辞任を求める宗教者共同声明（10月18日）
- 「辺野古海域への土砂投入に抗議します」（12月10日）
- 「日韓女性がつくる東アジアの平和のための共同声明」（2019年1月14日）
- 「『週刊SPA!』掲載記事に強く抗議します」（2019年1月15日）
- ウィメンズマーチ東京2019（2019年3月7日）
- 取材の自由を守ろう！市民の「知る権利」の侵害は許しません！宗教者共同声明（2019年3月20日）

寄付報告

2018年度も多くの
皆さまからご支援を
いただきました!

日本YWCA賛助費	1,679,000円
ピースメーカーズ募金	2,830,930円
東日本大震災被災者支援募金 (うち カーロふくしまサポーター 166,500円)	4,050,139円
災害時支援募金 (国内外の災害被害者支援、パレスチナ支援、北海道地震被害者支援含む)	4,842,676円
オリーブの木キャンペーン募金	1,710,000円
世界YWCA総会派遣募金	232,025円
指導者養成募金	500,000円
合計	15,844,770円

2018年度も、多くの皆さまからご支援・ご協力いただき、ありがとうございました。

日本YWCAは、2019年度も引き続き、平和で誰もが尊重される社会に向けた
女性たちの主体的な活動を支え、実施していきます。引き続きのご支援・ご協力を何卒よろしくお願いいたします。

代表理事 実生 律子・会長 藤谷 佐斗子

日本YWCAの活動をご支援ください。

募金の種類

- ピースメーカーズ募金** ➤ 平和を創り出す女性のリーダーシップ養成活動に用います。
- 東日本大震災被災者支援募金** ➤ 被災地の女性と子どもたちを支援する活動に用います。
- 賛助費** ➤ 日本YWCAの活動全般をご支援ください。
[一口年額] 3,000円 / 5,000円 / 10,000円
- 災害時支援募金** ➤ 緊急支援活動に用います。
- オリーブの木キャンペーン募金** ➤ 一口3,000円で、オリーブの木1本をパレスチナに植えます。寄付者には証明書が発行され、植樹された場所に寄付者の名前入りプレートを置きますので、必ずお名前のローマ字表記をお知らせください。

※日本YWCAへの募金 / 寄付金(賛助費を含む)は、税額控除の対象になります。

募金方法

● 銀行振り込み

三井住友銀行 飯田橋支店 普通 1198743 (口座名) 公益財団法人日本YWCA
ゆうちょ銀行 支店名 019 当座預金 023723 コウエキザイダンホウジンニホンワイドブリュースーエー

※銀行振り込みの場合、Eメールで①募金の種類、②ご住所、③お名前を、
また、オリーブの木キャンペーン募金の場合は、④お名前のローマ字もお知らせください。

● 郵便振替

00170-7-23723 (加入者名) 公益財団法人日本YWCA

※通信欄で募金の種類をお知らせください。オリーブの木キャンペーン募金は、お名前のローマ字をお知らせください。

● クレジットカードで募金(つながる募金)

右のQRコードからアクセス▶

つながる募金からのご寄付は全て、東日本大震災被災者支援事業に使われます。

携帯からご寄付される場合

ソフトバンクの場合 寄付金は毎月の電話料金に加算されます。

他の電話会社の場合 寄付金はクレジットカードでのお支払いになります。



つながる募金

● 口座振替で募金、カーロふくしまサポーター募集中!

毎月の自動引き落としで、東日本大震災被災者支援事業の一つ「カーロふくしま」を支えてください。お申し込みは日本YWCA (office-japan@ywca.or.jp) までEメールにて、お名前・ご住所・電話番号・メールアドレス、毎月の引落希望額(500円/1000円)をご連絡ください。

公益財団法人 日本YWCA

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台1-8-11 東京YWCA会館302号室

Tel: (03)3292-6121 Fax: (03)3292-6122 Email: office-japan@ywca.or.jp

Website: <http://www.ywca.or.jp>



BLESSED ARE THE PEACEMAKERS
-MATTHEW 5.9-